

Info&Report 編 救命救急法講習会

6月7日(水)、市生涯学習センターにて、救命救急法講習会を行いました。

万が一の時に、正しく対応できるように3年を目安に受講をお薦めしています。

昨年度に引き続き、今回も日本赤十字社富山県支部の赤十字救急法指導員の方に、AEDを含めた心肺蘇生法を教わりました。

一連の流れを3つの場面に分けて行いました。

まずは倒れている人を発見し、呼吸をしているかの確認まで。

1人だけで対応するのは大変なので、まわりに協力をお願いすること、救急車を依頼しても電話番号が思い出せない人もいますので「119番通報をお願いします」と伝えることなど、これまでの事例をもとに、ポイントを丁寧に指導していただきました。

次に胸骨圧迫について。押す深さ5センチは単三電池1つ分、肘を伸ばして真上から押す、1分間に100回から120回のリズムで30回・・・といったように、気をつけるべきポイントを体で把握できるよう、スモール Step で教わりました。

AEDの使い方まで習った後、最後に、傷病者発見から救急隊に引き継ぐまでの一連の流れを実際に行いました。

最後に指導員の方から

「1年に1回は、学校にあるAEDを開いて、その使い方を職員みんなで確認してみましよう。」

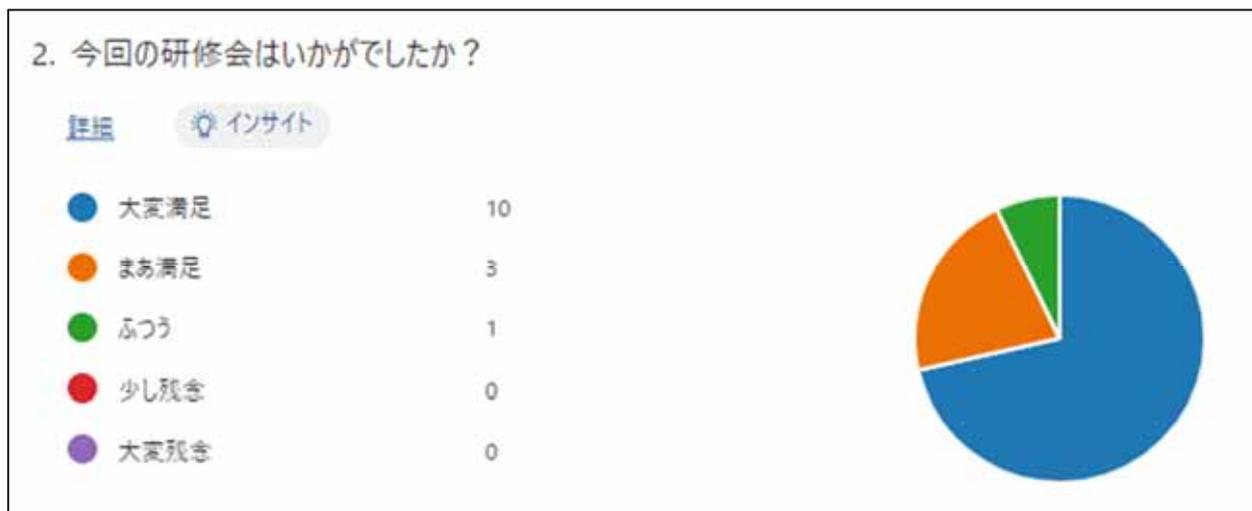
「救助法は年々方法が改良されています。毎年は無理でも、2～3年ごとに講習会を受けて欲しい。」

と話されました。

ぜひ、各学校で「こんな講習だったよ」「AED みんなで見ようか」と声をかけあっていただければと思います。



<研修会後のアンケートより>



感想

命を守るために必要な研修であると、改めて実感しました。適宜しなくては忘れてしまうので学校でも伝達したいと思った。
今まで何回か、救命救急の講習を受けたことがあるが、やり方を忘れていたので、確認できる機会となり大変よかったと感じた。
実際に人形を用いて実演でき、細かいところまで教えていただけたのでよかったです。ありがとうございました。
今年度は実践ができた点が大変よかったです。映像だけなら各校でも個人でも見られますが、器具を使った練習は集まってしかできないので、研修会として行う意味があると思いました。初めて知る知識があるわけではないのですが、手順の確認等、定期的に参加することに意味がある研修会だと改めて感じました。
救命救急法の大切さを改めて確認することができました。今日の学びを今後の危機管理に生かしていきたいです。
いざという時が来ない方がいいが、そのいざというときにしっかり対応できるようにしたい。
実技を交えて分かりやすく教えていただきました。ありがとうございました。人工呼吸については、実際のところは躊躇してしまうなあと感じました。
実技を通して、しっかり学ぶことができました。ありがとうございました。
講習を受けたのは、もう何年も前です。昨年度も一昨年度も申込みましたが、定員オーバーで受けられず、やっと受けることができました。年に 2 回くらい講習があると、受講したい方がもっと受講できるのではと思いました。
実技講習が取り入れられてわかりやすかった。
全職員がこの研修は受けるべきだと感じました。実際学校現場で起きた場合、周りにいる生徒への対応や、救急隊の誘導等も分担が必要になってくると思うので、役割を知るためにも必要だと思いました。
毎年受けるようにしていますが毎回忘れていきます この時期に受けさせていただけると本当にありがたいです
胸骨圧迫は、思っていたよりも強く押し下げる必要があることを学びました。命を守るために、今日学んだことを覚えておきたいと思いました。また、万が一のときは、気が動転しやすいと思うので、落ち着いて救助に臨むことが必要であると感じました。